

# 国語科学習指導案

日時 平成27年6月5日（金）第1校時

対象 1年4組（男子20名 女子19名 計39名）

指導者 教諭 山 宗 功

## 1 単元（教材）名 「対話」で読み深めよう

（「竹取物語」 中学生の国語1年 三省堂）

## 2 単元設定の理由

### (1) 教育的意義

現代は情報化社会であり、必要とする情報をすぐに手に入れられる時代である。しかし、その情報を受信する際に、発信側の意図まで汲み取った上で内容を正しく理解したり、発信の際に相手がその情報をどのように受け取るかといったことまでしっかりと考えて表現したりしているとはいいがたい状況も見受けられる。

このような状況は中学生も例外ではなく、相手の思いを汲み取って言葉の意味を理解したり、言葉を選んで表現したりすることを苦手とする生徒が増えている。また、そのことが原因で誤解を招いたり、トラブルに発展したりすることも少なくない。

そこで、古典の物語に表現されている登場人物の心情を読み深める活動を通して、言葉を手がかりにしながら文脈をたどり、思考力や想像力を働かせて作者が表現したかったことを的確に読み取る力をつけたいと考えて本単元を設定した。

本単元で教材として取り上げる「竹取物語」は、時を超えて人々に親しまれ読み継がれてきた作品であり、親が子を思う気持ちや子が親を思う気持ちなどの普遍的な人の心の動きが、巧みな心情表現によって描かれている。そのため、作者のものの見方や考え方を捉えるとともに、自分の考えを広げるのに適している。

本単元では、古典文を詳しく読むことを通して場面の展開や登場人物の心情を的確に捉える活動と、登場人物になりきって手紙を書くことを通して思いを適切に表現する活動を計画した。

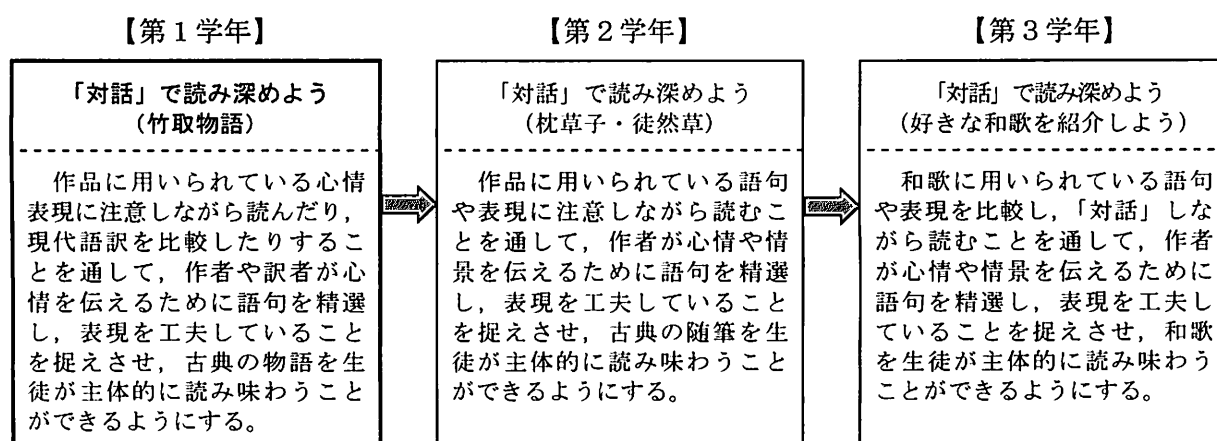
具体的には、まず、学習課題の解決を通して表現に注意しながら登場人物の様子や心情を的確に捉えさせる。さらに、複数の訳者の現代語訳を比較させて、どのように思いを表現すればよいかを考えさせる。

このように、語句や表現にこだわりながら想像豊かに物語を読み深めたり、語句の使い方や表現の仕方を工夫しながら表現したりする活動を通して、生徒は書かれていることを正確に理解する力や表現を工夫して自分の思いを相手に伝える力を身に付けることができるものとする。

また、このような学習を行うことによって、生徒は創造的に思考する力を高め、「ことばの力」を高めることができると考える。

### (2) 連関的意義

本単元は、ねらいと教材・学習活動の構成の系統において以下のような関連をもつ。



### 3 単元の目標及び評価規準

#### 【単元の目標】

(1) 用いられている語句や表現の仕方から登場人物の心情や場面の状況を進んで捉えようとしたり、書き手の思いが読み手に伝わるように、積極的に工夫しながら手紙文を書こうとしたりすることができる。 (国語への関心・意欲・態度)
(2) 用いられている語句や表現の仕方にこだわりながら竹取物語を読むことを通して、登場人物の心情や場面の状況を読み取ることができる。 (読む能力)
(3) 竹取物語に表れたものの見方や考え方に触れ、現代の人々のものの見方や考え方と比較することを通して、その相違点や共通点に気付くことができる。 (読む能力)
(4) 読み取った登場人物の様子や心情が読み手に伝わるように、工夫して手紙文を書くことができる。 (書く能力)
(5) 古典特有のリズムを味わいながら、古文を音読することができる。 (伝統的な言語文化)
(6) 歴史的仮名遣いや古典特有の表現の特徴に注意しながら作品を読み、語感を磨くことができる。 (言語についての知識・理解・技能)

具体的には次に掲げる内容を重点的に指導する。

評価の観点	評 価 規 準	学習指導要領との関連
国語への関心・意欲・態度	① 歴史的仮名遣いや古典文のもつ言葉のリズムに興味・関心を持ち、進んで音読をしようとしている。 ② 用いられている語句や表現の仕方から登場人物の心情や場面の状況を進んで捉えようとしている。 ③ 思いが相手に伝わるように、積極的に工夫しながら手紙文を書こうとしている。	
書く能力	④ 自分が伝えたい思いが相手に伝わるように、工夫して手紙文を書いている。	ア 課題設定や取材
読む能力	⑤ 用いられている語句や表現の仕方にこだわりながら読むことを通して、語句や表現が文脈の中で果たす役割を理解している。 ⑥ 登場人物の言動から昔の人々のものの見方や考え方を捉えるとともに、自分の考えと友達の考えとを比較することを通して、ものの見方や考え方を広げ、作品を読み味わっている。	ウ 文章の解釈 オ 自分の考えの形成
伝統的な言語文化	⑦ 古典特有のリズムを味わいながら、古文を音読している。	ア 伝統的な言語文化に関する事項(7)
言語についての知識・理解・技能	⑧ 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して作品を読み、語感を磨いている。	イ 言葉の特徴やきまりに関する事項(1)

### 4 単元の指導計画

#### (1) 単元設定の視点

##### ア 生徒の実態から

本学級では、「読むこと」の学習において次のような実態が見られる。

- ・ 物語などを読むことが好きな生徒が多く、進んで読書に親しむ生徒が多い。
- ・ 語句の辞書的な意味と文脈上の意味の違いについて理解することはできるが、用いられている語句や表現の仕方にまでこだわって、情景を想像したり、作者の思いに迫ったりするまでには至っていない生徒もいる。
- ・ 作者が語句や表現を工夫していることを理解することはできるが、作者がなぜそのような工夫をしたのかということまで考えようとする態度にまでは至っていない生徒が多い。

このような実態から、指導にあたっては、一つ一つの語句や表現の工夫に気付かせるために、比較して対話する活動を取り入れ、作者の表現の工夫や意図を生徒自らが捉えられるようにしたい。

## イ 本校の研究内容との関連から

### ① 「対話」の活性化の工夫～「対話」のための状況設定の工夫～（※ 手立て(7)は省略）

#### (イ) 「対話」せざるを得ない状況や場の設定

本校では、「読むこと」の学習において、生徒の思考の広がりや深まりを促すために、複数の文章を比較する活動を大事にしている。明確な観点をもって比較することによって、それぞれのよさが明白になり、語句や表現の工夫等について、生徒が、自己内対話を活発に行い、自ら思考し、判断することができるようになるからである。

また、自ら思考し、判断したことを客観化させたり、思考を深めさせたりするために、他者との「対話」を重視している。他者との「対話」を通して、「比較」したものが、吟味されたり、価値付けられたりするとともに、よりよい考えや新しい考えを構築するために一人一人が創造的に思考することになると考えるからである。

本単元では、「竹取物語」に表現されている登場人物の心情を、用いられている語句や表現の仕方に注意しながら読み深めさせたいと考える。しかし、古典文の入門期にある中学一年生にとって、古典文の詳細な読解は難しく、そこに表現されている心情を深く読み取るとは難しい。そこで、竹取物語の一部分についての複数の訳者の現代語訳を教材とし、それぞれの特徴やよさについて分析して、それらを比較しながら選ばせる活動を行わせることによって、意図的に「対話」が起こる状況を設定することにした。また、その際の「対話」が活性化することによって、自分が表現をする際でも、用いる語句や表現の仕方を吟味したり、工夫したりしていくものとする。

本時で教材とする現代語訳は、同じ部分でありながらも、自分や相手の呼び方や口調、補われている語句等が異なる。そのため、生徒が、それらを比較することによって、訳者がどのような目的や意図でそのような工夫をしたのかということや、読者としてそれぞれの文章からどのような印象を受けるか等について、様々な考えや意見をもつことが予想され、「対話」が活性化するものとする。

さらに、「対話」によって教材を読み深めさせる際には、その「対話」の目的が明確でなければならない。そこで、本時は「自分が翁や姫だったらどの手紙に最も心を揺さぶられるか」というゴールを設定することにした。生徒は、目的とするゴールに到達するために、根拠を明確にしながら他者との「対話」を行うため、「対話」が活性化するものとする。

### ② 「対話」の深化の工夫～全員参加型「対話」の工夫～（※ 手立て(イ)、(ウ)は省略）

#### (7) 少人数から大人数の「対話」へ

「対話」を深化させるためには、個々でしっかり考えや意見をもたせた上で、大人数よりも比較的意見が出しやすい少人数のグループでの「対話」を行わせた後、全体での「対話」を行わせるのが有効である。

生徒は、自分の考えや意見を明確にもつことによって、グループや全体での「対話」への意欲を高めることができる。また、少人数のグループでそれぞれの考えや意見を出し合い、それらを比較することによって、自分の考えや意見に自信をもったり、自分では気がつかなかったものの方や考え方に気付き、思考を広げたり深めたりすることができる。さらに、全体での「対話」を行うことによって、他者の意見にも耳を傾け、自分が選ばなかったものにもよさがあることに気付いたり、偏ったものの方や考え方を捨てて対象をより広い視野から吟味することの大切さを学んだりすることができるものとする。

このような学習形態をとることによって、生徒は、課題に対して自分の考えや意見を明確にもつことができ、他者の考えや意見をよく聞いて自分の考えと比較することによってよりよい考えや新たな考えを生み出すことができるため、「対話」が深化すると考える。

(2) 単元の指導計画 (全7時間)

週	主な学習活動	時間	指導に当たっての手立て	評価
入	1 単元を概観し、学習目標や学習計画を確認する。 2 全体のあらすじを確認する。 3 教科書の古文を音読する。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>竹取物語を読み味わう学習であることを確認させる。</li> <li>資料集等を使って、全体の話の流れを確認させる。</li> <li>歴史的仮名遣いや語句のまとまりを確認しながら音読させる。</li> </ul>	評価規準 ①⑦ (観察)
展  開	4 冒頭部分に描かれている翁のかぐや姫に対する思いを読み取る。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>描かれている翁の言動や、敬語表現などから、翁のかぐや姫に対する思いや翁とかぐや姫の立場の違いを読み取らせる。</li> <li>生徒の発表を構造的に板書し、翁の思いの深まりに気付かせる。</li> <li>翁のかぐや姫に対する思いを親が子に抱く愛情として捉えさせ、現代の人々のものの見方や考え方と比較させる。</li> </ul>	評価規準 ①②⑤⑦⑧ (発表・観察 ・ワークシート)
	5 かぐや姫が翁や姫に宛てて手紙を書く場面の翁・姫・かぐや姫の思いを読み取る。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>描かれている翁や姫の言動や書かれた手紙から、翁や姫のかぐや姫に対する思いとかぐや姫の翁や姫に対する思いを読み取らせる。</li> <li>かぐや姫の翁や姫に対する思いを子が親に抱く愛情として捉えさせ、現代の人々のものの見方や考え方と比較させる。</li> </ul>	評価規準 ①②⑤⑦⑧ (発表・観察 ・ワークシート)
	6 かぐや姫が翁や姫に宛てて書いた手紙の三つの現代語訳を比較し、どの手紙に最も心を揺さぶられるかを考える。	1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じ部分の三つの現代語訳を比較させることによって、用いられている語句や表現の仕方が違うことを理解させる。</li> <li>語句の用い方や表現の仕方の違いが読み手に与える影響を考えることを通して、心情を読み深めさせる。</li> </ul>	評価規準 ①②⑤⑥⑦⑧ (発表・観察 ・ワークシート)
	7 かぐや姫になりきって、翁や姫に別れの手紙を書く。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容と辞書的な意味はふまえても、かぐや姫(自分)の別れのつらさや悲しさが、読み手である翁や姫に伝わるように書かせる。</li> </ul>	評価規準 ③④ (発表・観察 ・ワークシート)
8 教科書にある姫が月へと帰って行く場面におけるかぐや姫・帝・翁・姫のそれぞれの心情を読み取る。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>用いられている語句や表現の仕方からそれぞれの人物の心情を読み取らせ、現代の人々のものの見方や考え方との共通点や相違点を考えさせる。</li> </ul>	評価規準 ①②⑤⑦⑧ (発表・観察 ・ワークシート)	
終末	9 学習を振り返り、書かれている思いを正確に読み取ることや思いを適切に表現することが大切であることを理解する。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習を通してできるようになったことをまとめさせることによって、文章を読み深める際や文章を書く際に大切なことを理解させる。</li> </ul>	

## 5 本時の指導（4/7）

### (1) 指導目標

かぐや姫の昇天の場面で、かぐや姫が翁と姫に宛てて書いた手紙の現代語訳を比較しながら読む活動を通して、訳者が語句の使い方や表現の仕方を工夫することによって、かぐや姫の心情が読み手に伝わるようにしていることを理解することができるようにする。

具体的には、主として評価規準⑥に即して、次の「読むこと」に関する能力の育成を目指す。

十分達成されている	三つの現代語訳を比較することを通して、現代語訳では、辞書的な意味をふまえつつ、登場人物の心情が読み手に的確に伝わるように語句が補われたり、語句の使い方や表現の仕方が工夫されたりしていることを理解している。
おおむね達成されている	三つの現代語訳を比較し、それぞれ語句の使い方や表現の仕方が工夫されていることを理解している。
達成していない生徒への手立て	一文ずつ丁寧に語句や表現を比較させることによって、三つの現代語訳の相違点に気付かせる。また、そのことによって、読んだときの印象がどのように違うのかを考えさせる。

### (2) 目標行動（G）

三つの現代語訳を比較した上で「対話」して分かったことを、例えば次のように発表することができる。

古典の物語の現代語訳は、登場人物の心情が読み手に伝わるように書き手が語句を補ったり、用いる語句を選んだり、表現を工夫したりしていることがわかった。また、そのことによって、読み手が受ける印象にも違いがあることがわかった。今後、古典に限らず文学作品を読む際には、語句の使い方や表現の仕方にも注意して、登場人物の心情や場面の状況なども豊かに想像しながら読んでいきたいと思う。

### (3) 下位目標行動

- ① 三つの手紙の語句や表現が異なる理由を説明することができる。
- ② A・B・Cのそれぞれが心を揺さぶられると思う理由をグループでまとめ、例えば次のように発表することができる。

- 「こちらを見上げてくださいね」という語りかけから、自分のことを忘れないでほしいという気持ちが伝わってくるので、Aの手紙に心を揺さぶられる。
- 「ああ」という短い語句に、かぐや姫が思わずもらした悲しみの気持ちが込められている気がするので、Bの手紙に心を揺さぶられる。
- 父や母とストレートに呼ばれることで、自分たちのことを本当の親のように思っていたのだということが伝わってくるので、Cの手紙に心を揺さぶられる。

- ③ 心を揺さぶられると思う手紙が同じ者同士でグループを作り、なぜその手紙に心を揺さぶられるのかについて話し合うことができる。
- ④ 自分がその手紙に心を揺さぶられると思う理由を例えば次のように発表することができる。

A	○ 着物だけではなく、月を眺めて私を思い出してほしいとはっきりと書かれていて、自分がいなくなったあとの翁や姫のことまで考えていることが伝わってくるから。
B	○ 死ぬまで別れたくない、別れるのは本当の気持ちではないと書かれていて、「ああ」という語句からも、別れることのつらさや悲しさがひしひしと伝わってくるから。
C	○ 翁や姫を父や母と呼び、その部分を倒置法で表現することによって、かぐや姫が翁や姫のことを肉親との別れのようにつらく感じている気持ちが強く伝わってくるから。

- ⑤ R 本時の学習の流れを理解することができる。
- ⑥ R 本時の学習目標を「登場人物の心情を読み深めよう。」、学習課題を「最も心を揺さぶられる現代語訳はどれだろうか。」であると確認することができる。
- ⑦ R かぐや姫が翁と姫に宛てて書いた手紙の三つの現代語訳を音読することができる。
- ⑧ R かぐや姫が翁と姫に宛てて書いた手紙の原文を音読することができる。

(4) 本時の実際

時間	学 習 過 程	指 導 上 の 留 意 点	評 価 活 動
5'	スタート 原文と現代語訳を音読する。 1 (⑧R, ⑦R)	<b>&lt;導 入&gt;</b> ・ 原文については、現代仮名遣いや語句のまとまりに注意させながら音読させる。 ・ 同じ部分の訳であるにもかかわらず、用いられている語句や表現が違うことに気付かせる。	
5'	本時の学習目標と学習課題、学習の流れを確認する。 2 (⑥R, ⑤R)	・ 本時は、かぐや姫が翁や姫に向けて書いた手紙の三つの現代語訳のうち、より心を揺さぶられものについて、なぜそう思うのかを「対話」を通してより明確にする学習であることを確認させる。 <b>&lt;学習目標&gt;</b> 登場人物の心情を読み深めよう。 <b>&lt;学習課題&gt;</b> 最も心を揺さぶられる現代語訳はどれだろうか。	
10'	三つの現代語訳を比較し、自分が心を揺さぶられると思う手紙を選ぶ。 3 (④)	<b>&lt;展 開&gt;</b> ・ 各自で三つの現代語訳を分析させて、語句や表現について、相違点を探させ、そのことによって受ける印象を考えさせる。 <b>&lt;達成していない生徒への手立て&gt;</b> ・ 現代語訳に用いられている一つ一つの語句の違いに着目させ、その違いによって読み手が受ける印象が異なることに気付かせる。 <b>&lt;達成している生徒への手立て&gt;</b> ・ 訳者は、現代語訳をする際にどのような目的や意図でその語句を選び、表現を工夫したのか考えさせる。	○ 三つの現代語訳を比較して、「自己内対話」を行い、語句や表現の工夫について考えることができたか。(観察・ワークシート)
5'	同じ文章を選んだ者同士によるグループで、選んだ理由について「対話」する。 4 (③)	・ 同じ現代語訳を選んだ者同士でグループを作らせ、互いの考えを広げたり深めたりさせる。 ・ 違う文章を選んだグループとの「対話」を行うための準備として、相手を納得させるような根拠をグループ内で共有させる。 ・ 全体での「対話」の際に、自分たちの説明に説得力をもたせるために、違いのある語句や表現とその根拠を明確にさせる。	○ グループ内での「対話」を通して、根拠を明確にするとともに、自分の考えを広げ深めることができたか。(観察・ワークシート)
15'	全体で発表し合い、どの現代語訳に最も心を揺さぶられるかについて、全体で「対話」する。 5 (②)	・ 異なる現代語訳を選んだ者同士の「対話」を通して、自分たちが気付かなかった特徴やよさに気付かせる。 ・ 相手を納得させるためには、明確な根拠や相手の意見を受け入れる姿勢も必要であることを理解させる。 ・ 全体での「対話」を通して、同じ内容であっても、語句の使い方や表現の仕方によって、読み手が受ける印象が違うことを理解させる。	○ 全体での「対話」を通して、さらに自分の考えを広げ深めることができたか。(観察・発表・ワークシート)
	学習のまとめをし、次時の学習について確認する。 6 (①)	<b>&lt;終 末&gt;</b> ・ 今日の学習で分かったことやできるようになったことを確認させ、これからの学習に役立てようとする意欲を高めさせる。 ・ 次時の学習は、今日学習したことを踏まえて語句や表現を吟味しながら、かぐや姫になりきって翁と姫に手紙を書く学習であることを知らせる。	
	ゴール		